

「消防団の力向上モデル事業」事業紹介

事業名 高度救助隊に学ぶ、救助資機材の取扱訓練

自治体名

愛知県豊橋市

消防団名

豊橋市消防団

1 事業の目的・必要性

南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されている本市にとって、近い将来必ず起こると言われている地震災害への対策を講じることは喫緊の課題となっています。本市では倒壊家屋からの人命救出を想定し、エンジンカッター及びチェーンソーを各分団に配備しているが、適切な教育体制の整備が追いついておらず、全ての団員が救助資機材を取り扱えるわけではありませんでした。

消防団の持つ数の力を最大限生かすためには、全ての消防団員が、共通の認識で救助資機材を取り扱える必要があることから、高度救助隊が持つ知識・技術・経験を活用し、適切な教育体制を整備します。

2 事業内容

高度救助隊が作成したプログラムによる救助資機材取扱訓練を、「市内全消防団員」を対象に「市内全消防署所」で開催しました！



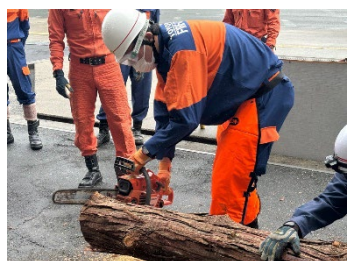
＜訓練プログラム作成会議＞



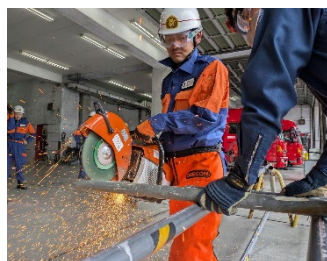
＜訓練前の様子＞



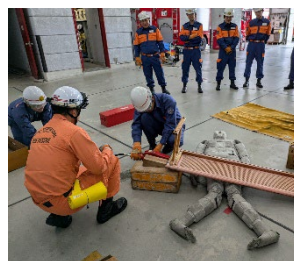
＜資機材整備要領教育＞



＜チェーンソー取扱訓練＞



＜エンジンカッター取扱訓練＞



＜倒壊家屋からの救出訓練＞

3 事業成果

管轄エリアを同一とする消防署所と方面隊で合同訓練をすることとし日程調整等を行いました。仕事等で都合が合わなかった団員は別日に開催される管轄エリア外の訓練に参加できるようにしたことで参加率の向上に努めました。訓練参加できなかった消防団員がいる分団には、各分団で救助資機材取扱訓練を行い、学んだ知識・技術の共有を図るよう指示しました。消防本部としては、各分団の訓練をサポートするため、資機材取扱方法をeラーニングで学べる体制を整備しています。このeラーニングにあっては、本市が独自に作成している消防団アプリとも連携させ、より気軽に視聴してもらえるような改良を予定しております。

前述の様々な取組みにより、市内の全消防団員が基本的所作から現場を想定した実践的手法を学ぶ教育体制を整備することができました。また、訓練後、消防団員にヒアリングした結果、救助のプロに教えてもらうことで消防団活動に対するモチベーションが上がったという、当初、想定していなかった副次的効果も見受けられました。さらに、各方面隊と各消防署所が連携したことで顔の見える関係を築くことができ、消防団と常備消防の連携強化に繋がり、地震のような大規模災害時だけでなく、通常の災害における対応力を向上させる効果もありました。

4 目標達成状況

指標	単位	当初目標	実績値	備考
訓練参加分団	分団 (%)	52分団 (100%)	52分団 (100%)	全分団の訓練参加は達成できたが、仕事の都合等で全団員の参加は叶わなかった。参加できなかった団員がいる分団には、各分団で救助資機材取扱訓練を行い、知識・技術の共有を図るよう指示した。
訓練参加団員	人 (%)	1,006人 (100%)	854人 (84.8%)	

5 その他参考情報



豊橋市消防団のホームページになります。

各種マニュアル等を掲載することで、団員がいつでも個人のスマホで確認できるようにしています。